

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第3回高松市競輪事業検討委員会
開催日時	平成29年12月22日（金）13時30分～16時
開催場所	高松競輪場研修室
議 題	(1)先回の実地見学と宿題の振り返りについて (2)検討手法（選択肢と評価の基準設定）について (3)収支見通しについて (4)市民アンケートについて (5)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	石川委員、板谷委員、七條委員、西村委員、万野委員、 矢野委員、米澤委員
傍 聴 者	9人（定員10人）
担当課及び 連絡先	競輪場事業課庶務係 851-5036

会議の経過及び結果

・ 会議の公開について

本日の会議については、個人情報等の非公開となるような事項の審議は想定されないことから、公開とすることとした。

(1) 先回の実地見学と宿題の振り返りについて

事務局から、資料を基に説明し、委員から意見や質問等を求めた。

(七條委員)

全体的に施設が非常に大きいという印象を受けた。今の集客力からすれば、こんなに大きな施設は必要がなく、北スタンドや西スタンドは撤去し、開催に必要な施設は耐震化すべきであると思った。

(石川委員)

選手の方の動線が入り組んでおり、もっとすっきりさせた方が良いのではないか。また、関連施設について、ここで1日を過ごすとした場合、食べ物の種類などが少ない感じがした。もし家族連れでの来場を促すのであれば、競輪グッズや子どもが遊べるルームなどがあれば良いと思った。

(矢野委員)

施設が広すぎると思った。スタンドを撤去した場合、バンクが風の影響を受けることになると思うので、防風施設を設置するか、他の必要な建物で対応可能なのか、考える必要があると思った。

(西村委員)

競輪場は素晴らしい施設であり、これから競輪場を、飲食を含め、どうすれば人が集まり、活発になるかという話を進める方が大事だと思った。収支の面も含め、将来を見据えて、観光交流人口が増える中、競輪場が県内のみならず、県外の方にも来ていただけるような施設になってほしい。

他に、選手控室が思いのほか暗く、選手の方はここで休んで試合に出るのだと思いながら驚いた。

(万野委員)

8月の本場開催の時に、施設を見学した際に、とても感動したことがあった。私は民生委員として地域で居場所づくりに取り組んでいるが、男性は誰も来ない状況である。それに比べ、競輪場では多くの高齢者の生き生きとした様子が見受けられる。もし競輪場がなくなれば、この方たちはどうなるのかと思った。

(米澤委員)

純粋に勿体ないというのが第一印象である。これからサンポートに新しい体育館ができるし、屋島には陸上競技場もできたので、競輪場をスポーツ施設の一つとして活かせる方向を探るのが良いのではないかと。

(板谷委員長)

初めて施設を見せていただいて、当初の目的である施設の老朽化に関して言えば、確かに古い。廃止という選択肢はあるが、残すとすれば施設に手を打たなければならないことは間違いないと強く感じた。プレスセンターや選手控室なども見せていただいたが、とても複雑なシステムの中に、多くの関係者がいて、そこで誇りを持って働いている。競輪場を残すとすれば、選手、従業員、お客様、それを見守る地域の方が誇りを持てる、シンボリックに語れる存在であってほしい。

次に、宿題事項を確認させていただきたい。矢野委員には、財政の在り方やリニューアル時の資金繰りなど、石川委員には、お金の在り方という意味で、市民へのリターンや収支についてどうお考えになっているか、西村委員には、市のシンボリックな存在感として、競輪場はどうあるべきなのか、万野委員には、事務局を通じて、地域における競輪場の

存在価値について、七條委員には、競輪選手、アマチュアも含めて、スポーツの観点からの競輪とは、どういうものかということ、米澤委員には、施設の耐震補強のほか、様々なパターンを想定した試算をお願いしていた。

今は、本当にざっくばらんに、皆さんがどう考えているかお聞きしたい。これからさらに、評価基準の精度を高めて、深い議論をしていかなければならないが、今、集まっている方々で、評価基準のスタートラインのようなものを、やわらかく議論、共有させていただくというのが狙いである。

(矢野委員)

改修費用に係る金利であるが、今の金利は非常に低金利で、全国的に債券は0.175から0.2パーセント程度で10年物が発行されているようである。ただ、香川県の場合は、債券は手続きが複雑なため、借入れを主に行っており、借入れで20年の固定の場合、0.21パーセント、10年の場合だと、0.195パーセント程度のコストが掛かるのではないかと思う。

また、高松市の財政は、総資産のうち、借入金の割合が、全国平均よりも少なく、借入れが増えても悪くなる感じではない。

(石川委員)

バランスシートがないので、分かりにくいですが、今までの収支を見ると、施設を建てる時に借入れを行い、これを競輪の資金で返しながら、一般会計にも繰り出しているということで、上手く遣り繰りができていると思った。ただ、公営企業法の全部適用を行い、貸借対照表を用いて、もう少し独立した形にしておいた方が、施設をどうするのかという意思決定も独自にできるようになるので、その方が良いのではないかと思う。また、今やめるとしたら、いくら必要かという金額も出した方が良いと思う。もしやめるとしても、お金がなく、返済できないのであれば、やめられない。丸亀市では、競艇で基金を作って積み立てているので、やめる時には、海岸の影響でかなりのお金が必要だが、積立金で賄えるとのことであった。丸亀市の場合、中期計画で、競艇から80億を一般会計に繰り出す計画になっており、もうやめられなくなるのではないかという話も出ていた。

(西村委員)

この会議をきっかけに、何度か丸亀競艇にも見学に行かせていただいたが、人の出入りも違うし、PRも上手であり、雇用もしっかりとできており、女性や若い方にも来ていただけるような仕掛けが整っていると

思った。また、先回の議題にもあった、廃止になった競輪場について、存続するか廃止するかの経緯の中で、それぞれの競輪場がどのような取組を行ったか、現在の高松競輪場の PR はどうなのか、実際に高松競輪に来られている方々の満足度はどうなのか、選手が施設を使ってどう感じているのかなど、いろいろな部分でヒアリング調査をしっかりと行い、その部分から、気持ちを高めていくことも大切なのではないかと感じている。

丸亀競艇に行ってみて驚いたことに、入口のかなり手前から、警備の方が誘導を行っていたり、大型バスが停まっていたり、また、若い方や子どもたちの出入りも多く、交流の場となっており、このような良いところをどんどん真似ていくことも大切だと思った。

(万野委員)

私は、何人かの方から頂いた意見をお伝えしておく。

ある民生委員の方から、近所に競輪に行っている人がいて、パチンコであれば、1日で何万円も使ってしまうが、競輪であれば、自分の小遣いで1日遊べるという意見の方を何人か知っているので、競輪場が無くなったら辛いという意見を頂いた。

また、近くに住む若い母親から、毎月1回、老人会や子どもたちが競輪場の周辺掃除を行っており、競輪場は子どもたちにも馴染みがあるほか、高齢者と子どもたちとの交流の場にもなっていること、また、競輪場が無くなったら、子どもたちの遊び場が無くなってしまおうので困るという意見を頂いた。

他に、私が家庭教師をしている学生から、母親が競輪場に勤めているので、競輪場が無くならないようにしてほしいと言われたこと、また、その時に、競輪場で働いている人たちがいるということを知った。

(米澤委員)

今のところ、想定されるパターンについて、全く白紙の状態であり、試算という点では、準備はできていない。廃止する場合に、いくらかかるかということなので、その辺りを探っていこうかと思っている。

(七條委員)

競輪選手を含めた、スポーツ選手の観点から述べたい。まず、アマチュアスポーツが中心であるが、本市体育協会30団体の中に、スポーツ少年団が170団体くらいあり、この中にサイクルスポーツ少年団があり、将来、競輪選手を始めとする自転車競技の世界に入ろうかという子どももいると聞いている。競輪は、チャンピオン志向の競技であり、アイススケート、バレーボール、陸上、サッカー、野球など、他の競技

から競輪選手を目指す人もいることから、競輪場は残していただきたいという思いはある。

また、自転車部では、主に高松工芸高校が、このバンクで練習しているほか、プロでは、日本競輪選手会香川支部があり、競輪場が無くなれば困るといったこともある。

他に、私も昨年まで民生委員をしていたが、高齢者が朝早くから夕方まで、無理のない範囲で競輪を楽しめるというのは、高齢者の健康づくりや居場所づくりにも良いのではないかと思う。

(板谷委員長)

皆さんの立場での意見を述べていただいた。やはりこれから、いろいろな代替案、評価基準を差配していくときに、皆さんのお立場で検討を深めて行ってほしい。数字が出ていない所は出さなければならないし、何人かの方にヒアリングをされた方もいるが、意思決定の判断材料に活かしていただきたいと思う。ここに集まっている委員の皆さんで、最終的には、代替案と評価基準を決めて、結論を出していきたいと思っている中で、皆さんが様々な見識をお持ちだということを改めて感じた次第である。

ここまでが、私が用意した宿題であり、皆さんから挙がったもので、事務局側への宿題として、他の競輪場が改修（耐震とリニューアル）を、どういう収支の流れの中で行ったのか、資金の当ては何なのか、また、廃止になった競輪場が、今どうなっているのかについて、共有することが大事なのではないかという中で、そのための材料を用意してもらったので、事務局にその説明をしていただきたい。

(事務局)

資料を基に説明

(板谷委員長)

廃止になった競輪場については、その後の跡地利用について相当苦労しているようである。広大な跡地をサッカー場にしたいといっても、多額の費用が必要であり、観音寺も含めて、更地化するための費用が課題になっていると思われるが、どれも大変だと感じた。

次に、競輪場の耐震診断等にどれくらい費用が掛かっているかということについては、競輪場によってかなりばらつきがあり、大宮では、平成14年9月から22年1月にかけて、最低限の耐震補強で、2億円弱となっている。したがって、2億円かければ、いくつかのスタンドの耐震補強は可能ではないかという一方で、立川では、耐震補強だけでも、10億円近い費用を要していることについて、事務局側で分かることは

あるか。

(事務局)

耐震の方法について、例えば、既存の建物自体にブレスを入れていくのみの方法もあれば、中央スタンドのような建物の1階室内部分をリニューアルするという方法もあり、後者の方法だと、費用が掛かってしまう。立川の場合、中央スタンドの耐震補強であり、普通のスタンドの耐震と比べ、高額になっているものと思われる。

(板谷委員長)

耐震費用について、最低限の補強を行った場合、規模等にもよるが、数億円必要となり、さらに、リニューアル分を加算すると、10億円近い額、そして、全体で20億円規模になるかと思う。

耐震診断以外の改修については、ばらつきがあり、都市部の基金がある場については、20億円を超える規模の手立てが可能であるという印象を受けた。

ナイター設備については、ナイター競輪やミッドナイト競輪を開催するため、設置している例が多く見受けられるが、1億円から2億円、高いところで4億円規模になっている。

全体の規模感として、耐震補強だけで、2億円から10億円くらいの幅があり、全体のコンセプトをいろんな形でリニューアルすると、20億円を超える例も見受けられる。高松にはナイター設備がないので、ナイター設備を設置するとなると、1億円から2億円程度が必要になると思われる。

昨今の東日本、熊本などの大地震が発生したこともあって、全体的には耐震診断に伴う改修の件数が多い。このように、老朽化した施設を放置しておくのは、許されないという状況になっているので、どの場も費用を工面して、耐震化を進めている。コンセプト的な、大リニューアルについては、基金を持っている場でなければ実現不可能である。

ミッドナイト競輪については、今後の収支計画にも関わってくるが、全面リニューアルに比べれば、当然規模も小さく、数億円規模となり、そういう所に着手している場が見られるということと、その規模感が分かったと思う。

他に、民間委託にはメリット、デメリットがあるということで、内容は分かったが、民間委託に伴い、経費上の収支がどの程度改善したといった数字は掴んでいるか。

(事務局)

具体の数字までは把握できていない。

(板谷委員長)

耐震補強等をした場合の、その後の入場者の増減の数値を出すことはできないか。

(事務局)

入場者数については、その時々イベント等にもよるので、耐震補強等の効果かどうか把握するのは難しい。また、耐震や全面リニューアルで、お客様が増えるという効果が出てきたところは少なく、ミッドナイト競輪や全国の競輪場での場間場外発売等により売上げを伸ばしているところである。ミッドナイト競輪は、施設を作り、そこに入場者を増やすという形ではなく、ほとんどがインターネット投票のため、広告によりお客様を増やすという形で、収益を上げている。

(板谷委員長)

では、先回の宿題の中の、全国の売上げ、入場者の説明を、事務局からお願いしたい。

(事務局)

資料に基づき説明

(板谷委員長)

繰越金残高というのは、どういう種別のお金か。過年度からの繰越しということでよいか。

(事務局)

お見込みのとおり。

(石川委員)

全面改修、リニューアルについて、武雄は改修後にミッドナイト競輪開催によって売上げを伸ばしているが、同市はリニューアルされた図書館でも有名である。なお、ナイター設備の資料中、借上げというのはリースのことか。

(事務局)

借上施行者という意味である。現在、高松が玉野競輪場を借り上げて、ミッドナイト競輪を開催しているように、ナイター設備のない競輪場が、ナイター設備のある競輪場を借り上げて、ミッドナイト競輪やナイター競輪を開催するというのが、借上場ということになる。

(石川委員)

「基金残高」と「営業活動収支」のデータについて、小倉を例にすると、基金残高が、営業活動収支の十数年分なので、基金残高を営業活動収支の平均で割ったような数字を出してもらえると、分かりやすいと思う。

(板谷委員長)

事務局の方で作っていただきたい。

(矢野委員)

包括委託契約について、日本トーターや日本写真判定等に委託しても、競輪は公営競技につき施行者は市となるが、委託できない部分はあるか。

(事務局)

基本的に、包括委託とは、通常の手券発売に係る業務を全てその業者に委託することである。施行権というのは、総務省の認可をもらった地方公共団体でなければならないことから、施行権は各自治体が持っているが、手券を売るための広報・宣伝から始まって、機械の入替え等に係る経費について、全て業者に委託をして、収益を上げていくこととなる。競輪場によって、包括委託の契約の内容が、若干異なり、例えば、売上げの小さいところは、赤字になった場合、赤字分のいくらかを施行者も負担しなければならない契約もあれば、赤字・黒字に関わらず、無条件で、収益を施行者に対して保証するといった内容の契約もある。契約した際の、施設の老朽度や、競輪場の売上状況などによって条件が異なるので、契約内容も様々なものになる。直近の例では、広島は包括委託により、毎年3億円の収益を保証するという内容になっているが、全ての場が同じ条件で契約を締結できるとは限らない。

(矢野委員)

希望する業者が出てくるかどうかは別として、高松において、包括委託することにより、コスト削減が可能かどうか、試算はしているか。

(事務局)

高松は現在、直営で行っており、包括委託した場合の試算まではできていない。

(矢野委員)

包括委託について、今後検討の課題になる可能性は、十分にあると思

う。もし包括委託した場合の地元の方の雇用について、これまで雇用していた方をそのまま雇用してもらえれば、雇用してもらえない場合もあると思うが。

(事務局)

法的に、契約の中に盛り込むことは難しい。今の従業員を委託後もよろしくお願ひしたいと、こちらの希望としては出せるが、それを守っていただける場合もあるが、無理な場合もあるので、業者とのやり取りの中で、決まっていくという形になる。

(矢野委員)

売上げや収支を見ていると、函館の収益がかなり多いと思うが、冬季は支障なく開催できているのか。

(事務局)

函館は、冬季は雪で開催ができないが、収益が多い理由として、ナイター競輪の開催が挙げられる。

(矢野委員)

函館や青森は、開催の条件的には厳しいということか。

(事務局)

開催できない時期は、当然、売上げもないが、経費も掛からないということになる。また、青森については、ミッドナイト競輪の先駆けの競輪場となっている。

(万野委員)

いわき平は、リニューアルにより家族連れや女性などの新規ファンの獲得につながったとあるが、どのような改修を行ったのか。

(事務局)

いわき平は日本で唯一となる天空バンクと呼ばれる競輪場である。1階部分は駐車場で、バンクの内側にはイベント広場がある。今年度開催したオールスター競輪の際には、この広場に沢山の屋台が出ており、多くの親子連れの方々が来場し、賑わいを見せていた。

(板谷委員長)

全額基金で、148億円掛かっている。お金を持っている競輪場は、こういった対応もできるという一例である。

(石川委員)

他に参考になるものがあれば、見せていただきたい。

(事務局)

直近のリニューアルの成功事例では武雄が挙げられる。武雄には、高松と同じような、大きなスタンドがあったが、中央スタンド以外のスタンドを全て撤去し、元の3分の1ほどの大きさになっている。中央スタンドだけを残すことで、そこにお客様を集約して、対応している。

(矢野委員)

小倉は、基金残高が非常に多いにも関わらず、一般会計への繰出しを行っていないが、その理由について。

(事務局)

小倉は、全国で2番目の全天候型ドームバンクとなっており、毎年、競輪祭を開催しているほか、競艇（若松ボート）も行っており、基金残高は、売上げが好調なボートとセットの額になっている。一般会計への繰出しを行っていないのは、施設整備に伴う起債の償還に多額の経費を要していることなどが要因と思われる。

(七條委員)

耐震化工事はいつまでに行わなければならないという期限はあるか。

(事務局)

期限はないが、今年の1月31日に、西スタンドは崩壊の危険性が高いという耐震診断の結果が公表されている中、それを放置したまま開催を続けていくというのは問題がある。こうした現状を踏まえ、会議の中で議論していただきたい。

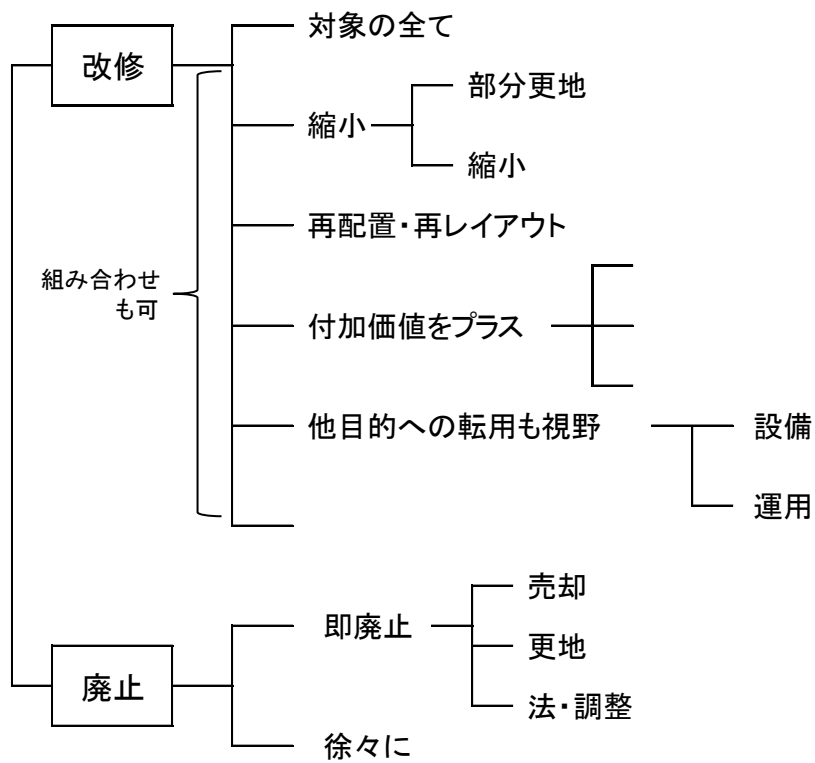
(2) 検討手法（選択肢と評価の基準設定）について

板谷委員長から、委員会で議論を深めていく中で、決め手となる枠組みについて説明

(板谷委員長)

事務局の方で、場合によっては、米澤委員の協力をいただく中で、縮小した場合、再配置した場合等の素案を作成していただき、次回以降、これを叩き台に検討していきたいと思う。

【代替案】



【評価基準】

- 経営
 - 収支
 - 財源
 - 管理手法
 矢野、石川、米澤
- 将来性・リスク
 - 西村
- スポーツ振興
 - 七條
- 地域経済
 - 西村、矢野
- 地域コミュニティ
 - 万野

(石川委員)

廃止に関して、壊すお金はないが、用地を売って、それで賄うという方法もある。ただ、壊すだけではなく、職員の退職金やそれ以外の経費も掛かるので、トータルで試算をしていただきたい。

廃止の事例を見ると、競輪場としては廃止するが、スポーツ競技場としては残すという選択肢もある。ただ、その場合、維持費は、一般財源から出さなければならないので、バンクだけ残したときの費用がどれくらい掛かるのかも知りたい。

財源について、公民連携で、他の遊戯施設を付けるなどの案をいただいて、民間から投資をしていただくという方法もあるが、それはこちら側で自由に決められないため、代替案の実施手法のところの、この組み合わせはできないと思う。民間に作っていただいたものを、委員会が決めたと言われるとなると、そこまでは責任を持ってない。

(板谷委員長)

プロポーザルやコンペなど、そこで何をやるかというのは、委員会の管轄外の話になる。委員会の会議は、あくまで、存続・廃止について、しっかり議論することであるが、この機会に、転用のための費用や、即廃止した場合の売却、更地化、法律的な問題、雇用の問題、土地がすぐに売れるか、民間転用等について差配していく。

(矢野委員)

ここは市の土地なので、我々は売却等について決められないし、退職金の問題についても、今は繰越金しかお金がないとしても、市の負担で解決していただくしかないと思うが。

(板谷委員長)

土地の売却等の判断については、委員会の管轄外になるが、委員会としては、廃止した場合の費用について試算しておく必要がある。

(3) 収支見通しについて

(板谷委員長)

収支見通しについて、今日この場で、何かを決めるのではなく、どういう形で判断材料になるかということで、検討していく上でベースとなる数字について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料を基に説明

(板谷委員長)

数字のベースラインが出た。過年度の、グレード別の売上げは出ているが、29年度はまだ終わっておらず、見込みの数字となるため、28年度までが、根拠となる数字だと思う。やはり、Gグレードの売上げは大きく、ミッドナイト競輪も売上げが大きくなってきている。

(石川委員)

収支決算に、固定経費と変動経費があるが、企業会計の点から言うと、車券発売収入から変動経費を引いた額がほしい。

(事務局)

固定経費と変動経費について、開催に伴う経常的経費であるのに対し、変動経費は、売上げによって額が変動する経費であるため、区別して表記している。

(板谷委員長)

このベースラインで、5年若しくは10年くらいを中継として、設備の改修とは別に、今出せる見通し案を作成し、それをベースラインとして、借入を行い、改修するという案があった時に、どれくらいの返済義務があり、拠出金がどう減るのかという数字をあてていきたいと思う。

(4) 市民アンケートについて

(板谷委員長)

先回、実施が決まった市民アンケートについて説明をお願いするが、その前に、位置づけの説明をさせていただきたい。我々委員の優先度が高いということになるが、やはり、高松市の公営事業のため、市民の声を聞かないわけにはいかない。その声を真摯に受け止めるということで、アンケートを行う必要がある。複眼視と言うが、委員だけで見てしまうと、バイアスが掛かったりするので、市民の皆さんの視線をいただいた中で、立体的に見える姿が、高松競輪の姿だと思う。勿論、数字は厳粛に出るので、見届けなければならないが、反対が多かった、賛成が多かったというだけではなく、数字の出方によって、我々が気づかなかった面も発見できるかもしれない。それでは、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料に基づき説明

(万野委員)

先回の議事録の中に、改修費用を税金で賄うわけにはいかないという発言があったが、改修費用等を税金で賄っていると思っている方も多くいるかと思うので、そうではないということを、もう少し強調した方が良いのではないかと思う。

(矢野委員)

借入れするとしたら、返済財源を競輪事業の収入で賄うということで、もし返済できないなら、事業自体成り立たないということになる。

(石川委員)

問8の、「1 最低限の耐震補強の上」のところで、「財源は競輪事業収入」といった文言を入れたらどうか。また、「競輪場に来たことがありますか」という問いが、高松競輪場か、他の競輪場か分かりにくいので、高松に限定するのであれば、「高松競輪場」と書いた方が良いかと思う。

(矢野委員)

老朽化が進み、耐震性の不足が指摘されている施設には、多額の改修費用が見込まれるとあるが、耐震をせず、更地にするとしても、費用が掛かるということが分かるように書いた方が良いと思う。

(石川委員)

お金を全て一般会計に入れてしまって、やめることができない状態で今まで運営してきたというのは、政策ミスであり、それをここに書くのはどうかと思う。

(板谷委員長)

私としては、まだ数字を出していないので、書かない方が良いかと思う。競輪場にとって、敢えて不利な内容で問うてみてはいかがか。

(矢野委員)

撤去費用は、本来積み立てておかなければならない。

(板谷委員長)

高松だけ基金がないというのは、寂しい。廃止の声が多くても、複眼視するための声は頂いた中で、それをきちんと受け止めて、議論していきたい。アンケートの結果で、廃止等を決めるということではないということは、皆さんで合意している。

(矢野委員)

四国新聞にアンケートが出ていたが、「廃止すべき」が約53パーセントという数字は、思いのほか少ないと思った。

(板谷委員長)

数字の見方も、いろいろと主観的な形での受け止め方があると思う。オープンに行っているので、新聞等で、別のアンケートが出てくるとも、当然あると思うし、開かれた委員会で進めていきたいと思っているので、先にそのアンケートが出たというのは、出たという事実ということで、記事を見た上で、アンケートの案をブラッシュアップしている。

(米澤委員)

自分が答える立場で見たときに、問5の「来たことがありますか」、問6、問7の「購入したことがありますか」という問いについては、頻度があった方が良くと思う。例えば、1年間に数回とか、10年に1回とでは全然違うと思う。私は丸亀市出身で、過去にボートは買ったことがあるが、その1回のみであり、それが、問いの、「はい」に該当するものかどうかという意味で、期限や頻度があった方が良くと思う。

(板谷委員長)

それは反映させた方が良く。大変、建設的な指摘であり、容易に修正できると思う。

(万野委員)

問9の「存続すべき」の理由の中に、雇用の面を加えることはできないか。

(板谷委員長)

雇用の面から、市の経済に何らかの寄与があるということによろしいか。項目を5までにしなくてはいけないアンケートではないので、5番目の案として、市への経済効果がみられるから、寄与しているといった旨の項目を追加することとしたい。

(5)その他

次の開催については、2月下旬頃とするが、アンケートの進捗状況との兼ね合いがあるため、事務局で調整を行う。

(閉会)